**第 4 回 蒲田駅周辺及び大森駅周辺地区グランドデザイン
策定に係る学識者検討委員会議事録**

日 時	平成 21 年 12 月 9 日（水）午前 10 時～正午
会 場	大田区本庁舎 2 階 201・202 会議室
出席者 (順不同)	学識者検討委員会メンバー：中井委員長、屋井委員、村木委員、池邊委員 庁内検討委員会メンバー：藤田委員長、荒井委員、玉川委員、大林委員、落合委員、篠塚委員、曾根委員、石井委員、青木委員、安元委員、川野委員、高安委員、鈴木委員、黒澤委員、杉村委員、岡田委員、廣瀬委員、齋藤委員 佐藤 まちづくり推進部長
傍聴者	21 人（アンケート実施）

1 開会

2 学識者検討委員会委員、庁内検討委員会委員の紹介

3 学識者検討委員会開催

（議事は中井委員長）

（中井委員長）

今回は 4 回目の学識者検討委員会となる。正式な学識者検討委員会は久々なので、その間の進捗状況を説明願う。

（齋藤委員）

グランドデザインの進捗状況について説明する。

蒲田駅周辺地区グランドデザインに関しては、たたき台の段階から素案まで作成を進めてきたところである。本日の検討委員会実施にあたり、区内部の各部署と調整の上、各庁内検討委員の意見を踏まえて素案を作成してきた。今後の予定については、本検討委員会を経て、意見などを反映させる形で修正を加えながら素案をまとめていく。年明けに予定している地元の説明会を経て、パブリック・コメントを実施する。パブリック・コメントは 1 月 15 日から 29 日までの 2 週間を予定している。地元やパブリック・コメントによりいただく意見を踏まえながら、平成 21 年度内に、素案からグランドデザイン（案）にする。

大森駅周辺地区グランドデザインについては、本日の検討委員会に向けて主に課題の整理ということで作業を進めてきた。グランドデザインの対象地域を中心に課題を抽出する。取組内容を箇条書きしたものをハード・ソフトといった項目別に仕上げ、現段階での課題にする。今後これらの精度を高め、基本理念・基本方針などに進めていきたい。進捗状況は以上になる。

■蒲田駅周辺地区グランドデザインについて

(中井委員長)

蒲田駅周辺地区グランドデザインの素案の説明をお願いします。

(齋藤庁内検討委員)

蒲田駅周辺地区グランドデザインの素案の説明をする。

素案の報告書は、1章から7章までである。第1章「グランドデザインの策定にあたって」というところで、グランドデザイン策定の背景、目的、エリアが書いてある。4ページにグランドデザインの位置づけを説明し、区の様々な計画の中でグランドデザインがどういう位置にあるかを示している。

第2章「蒲田駅周辺地区の現況と特徴」は、昨年度行った策定基本調査を基礎にしている。8ページは蒲田駅周辺の特徴を挙げている。9・10ページにかけて、まちの産業など7つの視点でまちの強み・弱みを記し、11ページに一覧表として整理している。

第3章「まちの将来像とまちづくりの基本方針」では、先ほどの第2章の「まちの強み・弱み」という特徴付けから課題を抽出し、課題からキーワードとしてまとめている。13ページは、このキーワードからまちの将来像を「にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく暮らせる人にやさしい蒲田」としている。14ページでは、将来像をもとに、まちづくりの基本方針ということで3つの基本方針を立てている。一つ目は「商業・にぎわい・交流の創出」、二つ目は「都市機能の向上」、三つ目は「まちの快適性の確保」である。

第4章「まちづくりの目標」では、将来像と基本方針をもとに目標の設定をしている。17ページのエリア図は、将来こういう枠組みでまちづくりを行っていくというエリアの設定をして、そこから課題別に基本方針に対応した目標を入れている。例えば、駅・駅前広場エリア、そこから伸びる商業中心軸といった設定をしている。19ページから具体的な目標の中身となり、三つの大きな基本方針別の色分けがされている。23ページに目標を実現するための取り組み主体があるが、この目標を受けて次の章ではアクションプランを定めていて、これを実現するためには地元や関係機関の協力のもとで進めていくことが書かれている。

第5章「アクションプラン」では、24ページに、(課題から将来像、基本方針、まちづくりの目標を経て)アクションプランに至るまでの経緯が図で示している。26ページから、方針ごとに(12の)目標を掲げている。基本方針1に目標1~3が対応している。最初のページのエリア図にプランの中身を落とし込んでいる。30ページは、基本方針2「都市機能の向上」に目標4~7が対応している。主に都市基盤系の中身となる。35ページからは、基本方針3「まちの快適性の確保」に目標8~12が対応している。

第6章「駅を中心とする地区整備」では、今回のグランドデザインの核となり、整備計画の課題と事業展開が書いてある。整備における課題は、大きく5点挙げられる。まず一つ目は、「蒲田駅東西の連絡性の強化」、二つ目が「駅周辺の自転車駐車場の改善」、三つ目が「東西駅前広場の向上」、四つ目が「蒲田駅・駅ビルの再整備」、五つ目は「駅前街区の建替え促進」である。

42ページに、課題解決の方向性について示している。43ページは課題解決の考え方とな

る。駅前整備は時間がかかるので、最終的な整備の方向性とそこに至るまでの当面の対応が書いてある。44 ページは整備の手順になる。45 ページからは各課題別の検討内容が書かれている。

最初は「東西連絡性の強化」である。現在は駅ビルのコンコースの他、JRの管理道が東口の交番から西口に抜ける連絡通路があるが、それだけでは不十分なので、駅のコンコースを整備する以外に、駅の北側と南側に連絡通路を整備することが書かれている。46 ページが自由通路についてで、図は現況だが、47 ページに今後の整備計画の検討案が書いてある。駅北側の検討と現状通路の改善、駅南側の検討になる。

駅北側については、JRの現在の線路上に連絡橋を設置、現状の通路は駅・駅ビルの再開発に合わせて改善する。駅南側については地下の通路を整備する案とJRの線路上に連絡橋を設置する案について書かれている。

次は「自転車駐車場の整備」で、51 ページまで現状の問題点を挙げている。これらの解決手段として、52 ページは、将来的には、地下自転車駐車場の整備を行っていくことが書いてある。53 ページには、地下自転車駐車場整備は時間がかかるため、それにいたるまでの当面の対策やソフト面の対策について書かれている。

次は、「駅前広場の整備構想」になる。蒲田駅の利用者は年々増えていて、将来的にも増加が予想されているが、現在の面積では不足しており、それをどうするかという課題と現状改善、今後の整備の方向性が書いてある。

55～56 ページはそのような課題の抽出、57 ページは羽田空港行きバス事情の現状と改善、58～59 ページは広場の今後の整備の方向性、60 ページは駅前広場の整備について書いてある。

「駅前街区の建替え促進」については、建替促進と駅前周辺街区について書いてある。第7章「グランドデザインの実現に向けて」では、今後のグランドデザインの実現に向けてどう展開していくのかという推進体制等を書いており、区民・事業者・行政、この三者が一体となって進めていく。

65 ページは「駅を中心とするエリアの今後の進め方」では、関係各機関、地元の方の意見を聞きながら進めていく。

66 ページは実施手順で、ステップ1から3まで、短期・中期・長期といった分け方をしながら、できるところから進めていく。報告書は以上になる。

報告書を集約した形のパンフレットがあるが、パンフレットがグランドデザインの本体となるもので、報告書に書かれていることを要約している。「地域力で作る蒲田のまち」とあるが、これは今、大田区が進めている地域力が重要なキーワードとなっており、地域の皆様の力をいただきながら、地域の皆様が主体となることができることから進めていく。区は最大限に支援し、みんなで力を合わせてまちづくりを進めていくという考えである。大体の形はこのようになっている。

(中井委員長)

パンフレットは冊子を要約したものということか。学識者検討委員の方々はどうお考えか。かなり出来上がりの形に近いものが出てきているので、全般に渡ってチェックをしていただいた上で、ご意見をいただきたい。パンフレットは冊子をまとめたものということなのか。

(屋井委員)

パンフレットがグランドデザインという意図は何か。冊子は、パンフレットに書かれているレベルの内容より細かい。ブレイクダウンされた内容についてはグランドデザインではないということなのか。

(齋藤庁内検討委員)

グランドデザイン自体がパンフレットになる。グランドデザインを作成するにあたり、様々な調査・報告を検討してきた。それらが報告書(冊子)の方で説明されている。この報告書のエッセンスがパンフレットとなる。そういうわけでこの二つは一体だが、グランドデザインといった場合はパンフレットを指す。

(中井委員長)

(パンフレットの中で)グランドデザインの「地域力」のところで、「商店街がにぎわうまち」など6つあるが、この6つはどうやってまとめたのか。冊子の中のどこに対応しているのか。ちょっとよく分からないが、それはあとで整理することにする。中身についてはどうか。

(齋藤庁内検討委員)

冊子とパンフレットとの対応については、冊子の中のアクションプランから、近隣の皆様方が主体的に取り組めるものを抽出して、それを「地域力」のところに載せている。

(中井委員長)

アクションプランというのは1-1とか1-2とかいうやつか。ちょっとよく分からない。

(齋藤庁内検討委員)

これは今後も修正を図っていく。まだ素案の段階だが、「地域力」をキーワードとしているので、区民や事業者が主体となって取り組めるものを抽出したつもりだった。ご指摘のように分かりにくい部分があるので、再検討する。

(中井委員長)

冊子で書いてあることとパンフレットの対応関係が見えないので、分かりにくいというより気持ち悪い。そうした関係にするには、冊子もそういう形にする必要がある。また、冊子の図で、アクションプランの1-1から3-3まで、図からいろんな引き出し線があって、実線で引き出しているもの、荒い点線で引き出しているもの、細かい点線で引き出しているものがあり、赤、緑、黄、青などそれぞれに色が塗ってある。色はなんとなく目標1・2・3に対応しているのだと思うが、実線・点線・細かい点線の他、一番下に引き出し線の付いていない点線の囲みがあるが、これらは意味があって使い分けているのか。

(齋藤庁内検討委員)

意味は特になく、デザイン上の問題だ。どういう基準でどのアクションプランと関係があるから入れたのか、まだ整理しきれていない。

(中井委員長)

色には意味があるのか。目標1が赤色、4からは青色となっているが。

(藤田庁内検討会委員長)

ご指摘のとおり整理しきれていないので、修正する。

(中井委員長)

それから、基本方針1は「商業・にぎわい・交流の創出」だが、他の方針のものもいっぱい入っている。例えば「呑川の散策路」など。これは関連しているから入れておいた方がいいという判断だと思う。それは良いが、このページの絵には「どういう基準で、どのアクションプランと関係があるから、ここに入れましょう」ということが整理されていない。26ページ、30ページ、ページの図は大事である。これらの図にどう落とし込むのかというのが、報告書におけるエッセンスである。ここは注意深く、何がどう対応しているか、一貫性を持って作ってほしい。

(池邊委員)

グランドデザインのパンフレットは誰に向けて発信しているのか。区が検討を進めてきたグランドデザインができて、それを広く区民の方に知っていただくためのアピールだと思う。その中で、パンフレットの上の部分には、「周辺地域の重点整備」という課題があり、「主に行政が中心となって進めていきますが、地域や事業者の協力が不可欠です」ということが書かれている。こういう課題を解決していこうということ、駅を中心とする地区整備を進めていこうという内容になっている。

このところ、政権交代で事業仕分けということが話題になっている。こういった箱もの・整備ものを、今後5年・10年、蒲田と大森が大きな目標としていることと思うが、どこまでできるのかは未知数である。その際、区民の方、あるいは行政の方々にとっても、こういった整備事業は、「川上の方でやっている」というような感覚なのではないかと思う。しかし、これからのまちづくりは、「補助金があつてそれをどう使うか」ということではなく、「地域と区がどれだけ一体になれるか」ということによって、かなり実行力が変わってくることと思う。今までは、区民は要求する方で、それに対して行政がやるという姿勢でいられたかもしれないが、これからは、いかに互いが譲り合って妥協点を見つけ、早くステップアップしていけるかということが大事である。その中で、ここの「地域力をつくる蒲田のまち」ということは大事だと思う。ただ、これがどこに位置づけられているかということがうまく出ていない。

報告書で、目標、アクションプランがあつて、アクションプランの下に、たとえば「おもてなしのまちづくり」、「観光サポーター」、「地域ガイド」などが入っている。アクションプラン自体は「人や文化の交流促進」という簡素な表現だが、その中身は「地域活動への呼びかけ」、「観光サポーター」、「外国人との交流促進」など、実際にどういうことが行われていくのか、区民の方が『人や文化の交流促進』というのはこういうことな

のか」ということが分かる内容となっている。

一番分かりにくいのはパンフレットの最後の部分、「アクションプランの取り組み」、「短期・中期・長期（5年・10年・15年）」と書いてあるが、そこに方針・目標が書かれているのではなく、アクションプランの内容が羅列されているだけである。この表の中で、自分達はこの中の何に入るのか、区民・事業者・地権者それぞれが、目標に向かって何をしていけばよいのかが、分からない。行政が「これをやっていきます」と言っていることに対し、区民・事業者がどういう風にして協力していくのかが見えてこない。「行政だけでこれをやります」というのなら、この内容でも良いとは思ふ。けれども、これからはお互いに要求し、どうやったらできるのかということ、譲り合いながら一緒にやっていくという時であり、パンフレットとしてはもうひと工夫ほしいところである。一番後ろの「整備の実現に向けて」というところに様々な課題があるが、ここが一番の課題となるので、それに向けてどうやっていくのかを明確にうたう必要がある。

ニューヨークのブローク・ウィンドウ理論について触れる。大きな犯罪をなくしていくために、落書きを消していく取り組みから始めたという事例だ。これにより、小さな軽犯罪がなくなり、大きな犯罪もなくなっていくという、ニューヨーク市警の有名で象徴的な話だ。蒲田にはそういう考え方が必要だと思う。小さなことで、区民と行政が一緒になって、何か一つできたということ。大きな開発をした時に区民も望むものができるということ。そういった姿勢をグランドデザインの中で示し、区民の方に分かってもらうことが大事である。

(屋井委員)

グランドデザインが報告書とパンフレットのどちらを指すのか、明確になっていない。報告書の方が、極めてグランドデザインに見える。ここでは、報告書を中心に議論したい。

全体の構成は非常に分かりやすいが、個々を見ていくと改良すべき部分がある。第5章「アクションプラン」の中で特に重要なのは「蒲田駅周辺の開発」で、第6章はそれを更に詳細に検討した内容となっているが、第5章と第6章の違い、アクションプランの位置付けが分からない。

また、自動車に対して、この地区ではどういう考え方を採っていくのか、明確に書く必要がある。自転車については、違法駐輪や自転車駐車場設置など、駐輪問題を重視した書き方になっているが、自転車走行空間の視点もほしい。

(藤田庁内検討会委員長)

屋井委員のご指摘のとおり、第6章がこの中でどういう位置付けになっているのか、明確に書かれていない。「都市機能の向上」は、問題が駅中心に集中している、という区としての認識がある。駅前広場、駅前広場に接する街区、駅、東西連絡性の強化、自転車の問題など、駅を中心とするエリアの抱える様々な問題をどのようにして解決したらよいのかということ踏まえ、アクションプランを推進すると、このようなことが考えられるということを表したかった。それぞれの問題が微妙に絡み合っており、一つ一つ単独では解決できないため、問題の整理をするとともに、様々な方と連携をとりながら解決にあたりたいという希望を表現したかった。

また、自動車の件については、「都市活動の一つとしてどう解決するか」という視点が抜けており、本来はその分析のもとにアクションプランを設定すべきだが、そこまで出来ていない。

また、池邊委員・中井委員長からのご指摘についても、その通りと考える。ランドデザインの考え方をどう分かりやすく伝えるか、報告書の中身がどう反映されているのか、という配慮に欠けているので、これから詰めていきたい。

(村木委員)

ランドデザインのパンフレットにある「地域力で作る蒲田のまち」について、「行政だけでやるのではなく、パートナーシップだ」ということを書いているのだと思うが、これが分かりづらいのではないか。ランドデザイン自体は行政の作る計画だが、「行政だけでできることではなく、みんなで一緒にやる」と言いつつも、行政の作る計画だから遠慮がちに「一緒にやりましょう」と書いているのではないかと感じる。そして、遠慮がちに書いているからこそ、分かりづらいのだと思う。「ここまでは行政がやります、ここから先は区民・事業者の方をお願いします」ということを、もう少し明確に書いた方がいい。

また、「地域力」という名称よりも「パートナーシップ」とか「行政と区民・事業者の連携」といった書き方のほうが分かりやすいのではないかと思う。

最後の「ランドデザインの推進」については、「区民・事業者・行政」の3つの主体が何らかのことをしていく、と書きつつも、誰が何をやっていくのかが見えないので、整理する必要がある。大きな目標だけが書かれていると、結果的に何をやればいいのか分からない。

そういうところは、紙面の都合もあるかもしれないが、詳細に書く必要がある。また、重要な箇所は色を濃くするなどの工夫がほしい。

(齋藤庁内検討委員)

村木委員、池邊委員の話の中の「誰に向けてのランドデザインなのか」、「役割分担」ということについてお答えしたい。事務局の方でも、この報告書を作る過程では議論があった。例えば、アクションプランの中に、「これは商店街、これは行政、これは区民」とはっきり書くかどうか、という話し合いがあった。ただし、主体は一つだけではなくはっきりしないところもあり、また連携が必要なところもあるということで、全般的に明確に仕分けして記載しなかった。ご指摘のとおり、それが分かりづらかったのだと思う。

地域力、パートナーシップについてはごもっともな意見なので、表現を工夫したい。ランドデザインの推進にあたって、役割分担を区民・事業者・行政と記載しているが、これだけではなく、まちづくりを担う方すべてが対象になる。表現の仕方については最終的に調整していく。

(池邊委員)

一番大事な「まちの将来像」のところについて、一つだけ付け加えたい。このページの中の「蒲田」という言葉を抜いたら、「大森」の方でも使えるのではないかと思うような

内容である。大きな基本方針の中には、蒲田らしさや蒲田への愛情が感じられるようなものにしてほしい。「蒲田がこうなってほしい」という親が子供に語りかけるようなもの、「こういうまちにしていこう」という、区民が触発されて「自分達で何かできるのではないか」と思えるようなものが基本方針の中にあるとよい。

(屋井委員)

さっきの「蒲田駅の再整備」のところに、「取り組みを進めます」という強い表現がある。この表現を「アクションプラン」としてきっちり書くのなら、第6章はそれに応じたものになるべきだ。第6章の中には現状認識としての課題も出てくる。これらの課題についてはもっと前の章の方で書かれるべきだと思うし、アクションプランの中の言葉の強さと比べたら第6章は弱くなる。まだ検討が必要だと思う。

(中井委員長)

いろいろな意見が出たが、全般的に検討すべき点が多い。しかし、構成はこういう感じだと思う。

古典的な計画としてはそれらしい形になってきていると思うが、一步引き下がって、これからの東京や日本のことを考えると、例えば低炭素の話が感じられないのは問題があると思う。緑や自転車の話など個々の要素は盛り込まれているから、それをもう少しキーワードとして前に出すべきだと思う。そういうことが、商店街の活性化についても、じわじわとボディーブローのように効いてくると思う。そこは意識したほうが良い。

(屋井委員)

第6章は、全体の中で、もう少し性格を明確にしてもらいたい。解像度が上がっているのならそのスタイルにし、引き下がって課題ばかりを書くのはよくない。

■大森駅周辺地区グランドデザインについて

(中井委員長)

大森の資料の説明をお願いします。

(齋藤庁内検討委員)

大森の資料は検討中であり、まだまだ不適切な表現等もある事をご了承いただきたい。資料1が大森駅周辺地区の強みと弱みで、大森の特徴を整理してある。資料2は大森駅を拠点とする活用資源の特徴が書いてある。駅の周辺部分とともに大森の大きな特徴として、周辺部分、臨海部や品川との関係にも活用できる資源があり、観光にも活かされるのではという認識も示している。品川区の資源も大森駅からアクセスできるので、大森のグランドデザインの中で活用できる資源として取り上げる。これらの課題や活用資源の分析を受けたものが資料3になる。上位計画の示す方向で、「おおた未来プラン10年」、広域的な役割で「蒲田駅周辺地区との関係」、「羽田空港周辺地区」となる。

(池邊委員)

大森の資源は歴史的資源だけではなく、海側の資源もある。しかし駅に降り立った時、

それが全く感じられないのが一番の弱みだ。外国の方を呼ぼうという構想があるが、外国の方から見れば、文士村や海側の資源は魅力的だと思うが、それがあることが分からないので、そこを強化しつつ、まちとしてどういう方向性を狙っていくのかを明確に考えた方がいい。

(中井委員長)

「入り口となる駅が大事だ」という話だと受けとめる。

(屋井委員)

品川区と一緒にあったグランドデザインが必要だと思う。これを進める仕組みなど、検討すべきだと思う。羽田空港国際化の部分は、本当に大森に求めるものなのか。ターミナルといっても、所詮は鉄道とバスの関係に過ぎず、なぜここで必要とされるのかという背景を固めていかなければならない。何となく近くにある駅の一つだからというだけでは十分ではない。その辺の背景があれば、教えてほしい。

また、最近改めて文士村を歩いてみたが、どこに行ってもいいか分からないというか、想像していた場所と違うなということを感じた。入り口は素晴らしく、良い導入部が出来ているが、歩いてその先を行くとどこも見られない。本当は、どこかに良いところがあるのかもしれないが、周ってみたら何も無かったというように、ポテンシャルがあっても実感することができなかつたので、それを伝える工夫がほしい。

(中井委員長)

羽田空港とのアクセスの関係で何かコメントはあるか。

(藤田庁内検討委員会委員長)

もともと、大森と蒲田を、同じように、羽田空港との連携を考えていきたいという行政の希望があった。屋井先生からお話をいただいたが、それを活用してなんとか底上げを図りたいというのが、底辺にある行政の希望だ。それをどうやって発展させるかが課題の一つである。先ほどの文士村がそういう状況なら、その辺にてこ入れをして、今ある財産を活用していきたい。先ほど池邊委員からいただいたご意見については、蒲田と違う特徴をどうやって出していくかが狙いとしてある。その辺の整理と戦略、またどのように発展に結び付けていくかがまだ見つけられない状態だが、なんらかの形で特徴を出していきたいと考える。

(村木委員)

地域のアイデンティティーが見えにくいと感じたのは、取組内容を見てみると、他地区でも必要とされることが多く書いてあるので、そう感じるのではないかと思った。このまちで重要なグランドデザインのキーになるのは、海と文化だと思う。地域性を考えれば、歴史・文化・観光の取り組みについて数を増やしていくことが他のまちとの差別化に必要なと感じる。歴史・文化・観光に関する取り組みをこれからどのように作っていくのかということが、大森のまちの次の像を描くのに大切だと思う。

(青木庁内検討会委員)

馬込文士村の件だが、観光資源を案内するためのサインを設置していこうと観光課で検討を始めている。歴史・文化・観光業務はもう少し分けられるのではないかとことだが、ランドデザインを進めていく中で馬込文士村の方にお話しをお伺いする中で、行政からも提案をしていきたい。

(池邊委員)

観光について述べると、国際ターミナル機能の強化というのがあるが、駅に来てターミナルというのはもうないかなと感じる。私が別件で携わっているところに、千葉県の元佐原市、今は香取市という、海側の歴史的な街並みがきれいなところがある。そこも羽田空港からではなく成田空港から、5時間のトランジットを利用して、どうかして佐原に来てもらおうではないかと試みている。色々なバスが色々な歴史的街並みのところで降りられるということが強みである。つまり、観光客がどうすれば来るのかというと、例えば羽田からバスで花卉市場や馬込文士村に降りられる、頻繁に20分おきにミニバスが来ている、それが色々なところを周って一巡したら、1時間で大森が見られる、大森貝塚や大森海岸だったところも見られる、といったことです。蒲田は蒲田、大森はまた違ったアクセスで、今のアイデンティティーに合ったアクセスの仕方を外国人に対して売り物にする。回遊路のようなものが海側と文士村の両方に必要で、大森のアイデンティティーとして考えた方がいいと思う。

(中井委員長)

資料2で地域の資源が多く示されているが、ランドデザイン策定エリアの中に一つもなく、この中で色々やって、これがランドデザインだと言えるのか。まわりを見据えながら、この中で何をやるかという視点でないと、まわりの資源も活かさないし、駅の両側をどうするかといった狭い範囲のランドデザインに落ち込むと思う。近視眼的に駅のまわりだけを見るのではなく、引いた目線で策定エリアの中でなにか出来るかを考えないといけない。策定エリアの線引きをしない方がいいのではないかと。課題の整理と取組み内容にとどまらず、次の材料を出してほしい。

○当日傍聴された方からのアンケートのまとめ

分野		ご意見
蒲田 ランド デザイン	旧 逆川 の 整備	アクションプラン「旧逆川道路の整備」について。現在、東口まちづくり協議会で話し合いが進行している。ランドデザインの考え方と計画が同じ考えで進んでいるとは思えない。逆川の整備については、地域の大切な資産として計画すべきで、京急蒲田とJRの中間点にあり、東口地区のセンターパークとしての計画をしてもらいたい。車の通行は時間等、限定すべきである。全面を基本的にプロムナード、駅間の中間休憩やすらぎ広場とすべきと考える。
	行政	行政の担当者のランドデザインに対する認識の不足を感じる。縦割りの弊害。

	駅周辺地区	<p>駅は今のままで充分。東西通路は自転車が使えものにしてほしい。</p> <p>どこでもある同じようなものは必要ない。地方の駅前は全て同じになっているから魅力がない。それと同じである。蒲田の「遅れたところ」をメリットにするべきである。人口は減っていくので、まず今あるものを活かすべきだ。新しいものをつくるお金はどこにあるのか？区役所の人は何か勘違いをしていないか？</p>
	小さなことから	<p>池邊委員の発言に「小さなことから」という話があった。自分大田区で障害当事者として行政とともにバリアフリーの町づくり活動をしている。小さい事からではあるが、改善の実現を試みている。</p>
	表現・内容	<p>報告書がよく理解できない。何事も長く書けばよいものではない。コンパクトに一目見てわかるよう、文章表現を考えてほしい。</p>
		<p>村木委員の発言にあったが、「地域力」という言葉より「区民との協働」「パートナーシップ」の方がよい。「地域力」という言葉を取り違えている困った町会が出てくる。</p> <p>蒲田については、グランドデザインそのものが見えない。</p> <p>安全・安心のまちの挿絵（地域住民による見回りイメージ図）は気持ちが悪い。こんなまちが実現したら居心地悪いし、おかしいと思う。</p>
検討のあり方	<p>学識者に何を求めているのか。学識者4人を揃えて意味がない。出来上がったものを評価するのではなく、一緒に考えてはどうか？区が骨格、方針を立てて、詳細を区民に考えてもらう方がよいのではないか。住民が一番住んでいる環境をよく知っている。ペーパー上では何でも言える。</p> <p>傍聴者（区民）の質問を聞く機会を持つてはいかがか？実際に住んでいるので意見があると思う。</p>	
	<p>ずっと出席しているが、何回してもなかなか出来上がらない。学識者の話を区の職員が取り入れられないのではないか。学識者に事前に資料を渡し、検討した意見を述べていただきたい。区と学識者とのちぐはぐさを感じた。</p>	
	<p>行政と区民の希望のギャップがあるのではないか。「国際都市おおた」「羽田空港」等、グランドデザイン策定段階から、もっと区民の意見を聴くべき。</p>	
蒲田・大森グランドデザイン	連携	<p>区民、事業者、行政が連携して、蒲田駅周辺地区・大森駅周辺地区のまちづくりを進めるために、総合的にまちの管理、運営を行うための仕組みづくり（TMO、TMC）が必要なのではないかとと思う。</p>
	その他	<p>蒲田、大森地区の将来のために、ご尽力いただき感謝する。</p>
		<p>蒲田中心の話だったが、大森も至急改善すべき点があるので早めの対応が必要だ。</p> <p>個人的に、グランドデザインの位置付け等の仕組みを理解することができた。</p>

大森 グランド デザイン	交通	屋井委員から、羽田へのアクセスはなぜ大森からか、という質問があり、藤田部長は「区の望み」というような答えだったが、羽田へは交通上最も近い。環七→357号線と行けばすぐ着くという。
		羽田空港の交通機関がきっちり考えられていない。
		大森から羽田へのアクセスが不便。駅前には緑の広場を希望するが、バスの本数が少ない。大田市場やその先の公園など観光資源はあるので、交通計画を自家用車ではなく、もっとアピールしてほしい。
	コミュニティバス	コミュニティバスは大賛成。大森駅山王口地区まちづくり協議会でコミュニティバス案を持っているので協力する。
		池邊委員から、「文士村も含めたeバス（コミュニティバス）での観光」という発言があったが、住宅地に観光者がバスで入り込んでくるのは大反対である。子どもの安全を考えて欲しい。歩くコースをもっと充実させるだ。
	文化	駅の西・東は文化が違う。
		池邊委員の「駅に降り立つと文化がない」という発言に同感。アイデンティティーも重要である。駅の西側・東側は表情が違う。駅周辺で目に見える形で残す重要性。ぜひ北口西側の池上通り沿いにある水平氷店三階建てを観光案内所（情報所）として残すべき。
		大森GD資料②について。池上駅の上部の緑色は池上本門寺のはず。750年の古刹であり、重文の五重塔（築400年）さえある。成田空港の資源には成田山新勝寺が明示されている。文化財は文化財、歴史的価値は歴史的価値で認識・評価すべき。
	自転車等	学識者検討委員の意見にあったが、車・自転車を含めた計画というのは大事だ。大森に住んでおり、自転車のマナーが悪く困っている。狭い道は生活道路速度制限20km（30km）を守られるような工夫も必要。ある区間は車の出入を制限するなど。
	駅周辺の開発	大森駅（山王口）西口は都市計画がありながら守っているのは中央三井信託だけである。バス停・バスターミナルが、都道に60年間同じように停車しているのは行政不在そのものだ。長期的ビジョンといっても計画決定後、断固として推進する努力や制度なくしてはあと50年たっても大森西口は都道にずらりと並んでいる。
		大森駅に隣接する通称地獄谷地区も①容積率の倍増（予算なしで再開発を誘導できる強力なエンジンになる）②JRサイドとの連携（大井町のJRビルを見てほしい）③行政のリーダーシップで道路拡幅と合わせた再開発を進めるべき。
	地域・周囲との連携	大森地区の方も引き続き、地域住民の要望を取り入れていただきたい。
		屋井先生より、品川区との連携はこれからという話題が出たが、既に我々ではやっている。夢フェスタ、大森貝塚保存会など。ノウハウを尋ねれば？
		脱CO2ということも含め、地域商店街との連携など、環境ポイント化も含めた地域調整など検討してほしい。NPOが育つような環境づくりも。
		中井先生より、駅周辺のことのみ近視眼的にみるのではなく、周りもグランドデザイン、という考え方に共感する。ただし範囲に関しては品川区境界まで伸ばさないでほしい。